

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	広島工業大学
設置者名	学校法人鶴学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
工学部	電子情報工学科(旧)		0	0	24	24	13	
	電子情報工学科 電子情報工学コース(新)				20	20	13	
	電子情報工学科 臨床工学コース(新)				13	13	13	
	電気システム工学科(旧)				17	17	13	
	電気システム工学科(新)				21	21	13	
	機械システム工学科(旧)				30	30	13	
	知能機械工学科(旧)				21	21	13	
	機械情報工学科(新)				26	26	13	
	環境土木工学科(旧)				13	13	13	
	環境土木工学科(新)				15	15	13	
	建築工学科(旧)				26	26	13	
	建築工学科(新)				20	20	13	
情報学部	情報工学科(旧)			0	16	16	13	
	情報工学科(新)				16	16	13	
	情報コミュニケーション学科(旧)				16	16	13	

	情報システム学科(新)				28	28	13	
	情報マネジメント学科(新)				18	18	13	
環境学部	建築デザイン学科(旧)			0	14	14	13	
	建築デザイン学科(新)				16	16	13	
	地球環境学科(旧)				18	18	13	
	地球環境学科(新)				22	22	13	
	食健康科学科(新)				26	26	13	
生命学部	生体医工学科(旧)			0	14	14	13	
	食品生命科学科(旧)				32	32	13	
(備考)								
令和7年4月より学部学科改組を行い、4学部12学科から3学部11学科(コース含む)となった。								
同一の学科名もあるが、学科名に「(旧)」と記載のある学科は改組前の学科であり、従前の教育課程に基づいて記載している。学科名に「(新)」と記載のある学科は改組後の学科及びコースであり、完成年次に達しておらず、3年次以上の科目は未開講であるため、当該科目は完成年度までの設置計画に基づいて記載している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

広島工業大学ホームページ(シラバス)で一覧表PDFを配置して公開
<https://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/syllabus/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	広島工業大学
設置者名	学校法人鶴学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

鶴学園ホームページ（情報公開）で公開 URL: https://www.tsuru-gakuen.ac.jp/info/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社 顧問	2026.2.17～ 2029 年度定 時評議員会	学校法人の運営全 般(施設部門担当)
非常勤	会社 代表取締役会長	2023.4.1 ～ 2027.3.31	学校法人の運営全 般(財務部門担当)
非常勤	法律会計事務所 弁護士	2024.6.1 ～ 2027 年度定 時評議員会	学校法人の運営全 般(総務部門担当)
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	広島工業大学
設置者名	学校法人鶴学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では、次年度の授業担当教員決定後(11月頃)、授業担当教員が次年度開講授業科目のシラバスを作成している。シラバスは、授業の目的、履修条件、キーワード、履修上の留意事項、授業内容・方法、到達目標、評価方法及び比率、評価及び評価基準並びに能動的学習の授業手法を記載必須項目としている。 なお、授業の目的、キーワード、到達目標については、科目の開講学科及びコースでそれぞれ定めているディプロマ・ポリシーと関連させて記載することとしており、カリキュラムの一貫性を担保している。 また、授業改善点を記載する項目を設けており、前年度に開講した授業の実施結果(履修者によるアンケート)等を踏まえて、授業内容や方法の改善に努めている。 作成されたシラバスについては、シラバス・チェックシートにより、作成者本人及び第三者である関係教員が、事前・事後学修時間、実務経験のある教員による授業科目等の記載を確認している。 シラバスの確認が完了した後、授業開講年度の初めに、大学公式サイトにおいて公開し、教職員及び学生に対して、公開の連絡を行っている。	
授業計画書の公表方法	広島工業大学ホームページ(シラバス)で公開 URL : https://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学では、開講授業科目のシラバスに明示している、試験やレポート、学習意欲(出席等)等の成績評価方法に従い、各授業科目の単位授与を行っている。評価基準については、@ : 90~100、A : 80~89、B : 70~79、C : 60~69、D : 0~59、P : 認定とし、それらの基準に基づいて評価している。 なお、定められた順に修得しなければ学修成果が見込めない科目については、先に学ぶべき科目の単位修得を、後に学ぶべき科目の履修要件としている。 また、シラバスに前年度の科目GPA及び評価分布を可視化し、各科目において適正かつ厳正な評価が行われているかを確認している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、「GPA等の客観的な指標設定」として、以下の算出方法により、GPA及びGPTの数値を算出し、学生の学修成果を示している。

なお、GPA及びGPTを算出するための評語(評価)の基準については、2.に記載のとおりとしている。

また、学生の学修成果はGPAのクラス分布表を用いて可視化し、学生自身が学修について見通しを持って、主体的に取組むよう促している。

GPT:

履修科目の成績合計値。履修科目ごとの単位数に、履修科目の成績評価に応じたGP(Grade Point)を乗じて得た値の合計で算出する。

ただし、自由科目の修得単位は算出の対象にならない。

<算出方法>

{(履修科目の単位数) × (履修科目のGrade Point)}の合計

評語(評価)	@	A	B	C	D
Grade Point	4	3	2	1	0

GPA:

履修科目の成績平均値。履修科目ごとの単位数に、履修科目の成績評価に応じたGP(Grade Point)を乗じて得た値の合計(GPT)を履修科目(未修得の履修科目を含む)の単位数の合計で除して算出し、小数点以下第2位(第3位を四捨五入)までの値で表す。最大値は4.00となる。ただし、自由科目の修得単位は算出の対象にならない。

$$\frac{\{(履修科目の単位数) \times (履修科目のGrade Point)\}の合計}{履修科目(未修得の履修科目を含む)の単位数の合計}$$

GPT/GPAの種類:

- 【前期 GPT/GPA】 前期の履修科目の成績評価を対象として算出する値
- 【後期 GPT/GPA】 後期の履修科目の成績評価を対象として算出する値
- 【当該年度 GPT/GPA】 当該年度の履修科目の成績評価を対象として算出する値
- 【通算 GPT/GPA】 入学時からの履修科目全ての成績評価を対象として算出する値

客観的な指標の
算出方法の公表方法

- ・学生への配付物(CAMPUS GUIDE)へ記載。
 - ・証明書発行機から発行である学業成績証明書への記載。
 - ・保護者への送付物への記載。(チューター面談対象の学生の保護者へ学業成績表とともに送付)
 - ・広島工業大学ホームページ(GP制度)で公開
- URL: <https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/etc/gp/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、ディプロマ・ポリシーに基づき、学部・学科及びコースごとに卒業の認定に関する方針を定めている。

ディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。

建学の精神「教育は愛なり」及び教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」に則り、科学と真理に関わる幅広い知識と技術を身に付け、未来を創造する志と豊かな人間性を有し、社会を牽引する倫理観ある技術系人材の養成を目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める修了要件又は卒業要件を満たすとともに、次に示す「知識・理解」「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲・態度」を備えた者に、博士、修士又は学士の学位を授与します。

I 【知識・理解】

幅広い教養と科学技術に関する知識を統合的に理解し、実践的に活用できる。

II 【思考・判断】

持続可能な社会創造に向けて科学的・倫理的に思考し、多様な視点から適切な解決策を判断できる。

III 【技能・表現】

専門分野の汎用的技能を備え、豊かな表現力を身に付けている。

IV 【関心・意欲・態度】

技術者としての高い倫理観を備え、様々な分野に対する深い関心と主体的で継続的な学びや奉仕への意欲を有し、グローバルな視点と協働の態度を持って未来社会の創造に貢献できる。

なお、卒業の認定については、4年間以上の在学と以下のとおり定めた単位数の修得を要件としている。

【学部別 卒業に必要な単位数】

(2020～2024年度入学生) ※2023～2024年度の生体医工学科を除く

学部	学科	リベラルアーツ教育科目		社会実践教育科目及び専門教育科		合計
		必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	
工学部	電子情報工学科	9	15	51	49	124
	電気システム工学科			54	46	
	機械システム工学科			65	35	
	知能機械工学科			59	41	
	環境土木工学科			58	42	
	建築工学科			65	35	
情報学部	情報工学科	8	16	42	58	124
	情報コミュニケーション学科			40	60	
環境学部	建築デザイン学科	9	15	51	49	124
	地球環境学科			46	54	
生命学部	生体医工学科	9	15	96	4	124
	食品生命科学科			45	55	

(2023～2024年度入学生) ※生体医工学科のみ

学部	学科	リベラルアーツ教育科目		社会実践教育科目及び専門教育科		合計
		必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	
生命学部	生体医工学科	9	15	104	4	132

(2025年度以降入学生)

学部	学科	リベラルアーツ教育科目		社会実践教育科目及び専門教育科		合計
		必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	
工学部	電子情報工学科（電子情報工学コース）	10	14	47	53	124
	電子情報工学科（臨床工学コース）			99	1	
	電気システム工学科			56	44	
	機械情報工学科			63	37	
	環境土木工学科			58	42	
	建築工学科			63	37	
情報学部	情報工学科			47	53	124
	情報システム学科			45	55	
	情報マネジメント学科			43	57	
環境学部	建築デザイン学科			67	33	124
	地球環境学科			46	54	
	食健康科学科			48	52	

卒業の認定に関する
方針の公表方法

- ・ 広島工業大学ホームページ（教育情報の公開（その他））で公開
URL : <https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/etc/>
- ・ 大学ポータル（広島工業大学）
URL : <https://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000617301000.html>
- ・ 刊行物 CAMPUS GUIDE（新入学生へ配付）

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的 (公表方法：広島工業大学ホームページ(大学紹介・その他)で公開 URL : https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/etc/)
(概要) 【令和 6 年度以前入学生】 専門的な科学技術の基礎力、創造性教育のための体験学習、学際性及び社会力育成にかかる教育を重視し、ものづくりを通して、社会に奉仕、貢献できる人材を育成します。 【令和 7 年度以降入学生】 ものづくりに関する専門的な知識と先進的なデジタル技術を融合させた学びに基づき、社会の持続的発展と産業界をリードする技術者として、デジタル技術を活用して課題を発見し解決することで、新たな価値を創造しようとする「ものづくり人材」を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：広島工業大学ホームページ(3つのポリシー)で公開 URL : https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/)
(概要) 【令和 6 年度以前入学生】 工学部では、社会の持続的な発展を支える実践的なものづくり関連の教養と専門知識を身に付け、次世代の技術革新の担い手として、高度な専門能力と創造性を兼ね備え、強い責任感を持って自律的な行動ができる技術者を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士の学位を授与します。 <知識・理解> ものづくりの基盤となる工学分野について、技術者に求められる幅広い教養を身に付け、基礎学力と専門知識を体系的に持ち、新しい問題に応用できる。 <思考・判断> 修得した専門分野の知識と情報技術を活用し、創造的かつ論理的な思考力と問題解決のために必要な判断力を持って、社会の要求に対応できる。 <技能・表現> 修得した知識をもとに、自らの考えを文章化あるいは図式化して、その情報や技能を正確に表現し、伝えることができる。 <関心・意欲・態度> グローバルな視野に立って問題解決に向け他者と協働し、職業を通じて社会に貢献・奉仕でき、技術者としての使命感と倫理観を持って責任ある行動ができる。 【令和 7 年度以降入学生】 工学部では、ものづくりに関する専門的な知識と先進的なデジタル技術を融合させた学びに基づき、社会の持続的発展と産業界をリードする技術者として、デジタル技術を活用して課題を発見し解決することで、新たな価値を創造しようとする「ものづくり人材」を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士(工学)の学位を授与します。

<知識・理解> 社会の諸課題を解決するための幅広い教養と体系的な専門知識を身に付け、持続的発展に向けた分野横断的な方策を理解できる。 <思考・判断> 専門分野の知識とデジタル技術を活用し、適切な判断を下すための情報を収集・分析するとともに、論理的・多面的に思考し、課題解決のための判断ができる。 <技能・表現> 専門分野の汎用的技能を備え、他者の考えを理解するとともに、適切な表現方法で自らの考えを正確にわかりやすく表現できる。 <関心・意欲・態度> グローバルな視野と技術者としての高い倫理観を持ち、他者と協働することで課題を解決し社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：広島工業大学ホームページ(3つのポリシー)で公開 URL：https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/)
(概要) 【令和6年度以前入学生】 工学部は、広島工業大学の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)をもとに、工学部の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえて教育課程を編成します。教育課程は、幅広い知識をもとに総合的判断力を備えた豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観とコンピテンシーを持つ技術者となることを目的とした社会実践教育科目、工学に関する諸問題に立ち向かっていくための専門分野の基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリーにより学びの順次性をもって編成します。 【令和7年度以降入学生】 工学部では、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、「ものづくり人材」を養成するための教育課程を編成します。教育課程は、グローバルな視野と幅広い教養を備えた豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観を持ち他者と協働し社会に貢献できる技術者となることを目的とした社会実践教育科目、工学に関する基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリー及びナンバリングにより学びの順次性をもって編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：広島工業大学ホームページ(3つのポリシー)で公開 URL：https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/)
(概要) 【令和6年度以前入学生】 (概要) 工学部では、ディプロマ・ポリシーに基づき、工学に関するものづくり関連知識と技能に深い関心を持ち、その課題発見と解決の意欲に溢れ、人間力豊かな人材を育成するために、次のような入学者を求めています。

＜知識・技能＞

工学を学ぶ上で必要な「数学」「理科」「英語」などの基礎科目について、高等学校の教科書レベルの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲を持つ人。

＜思考力・判断力・表現力等の能力＞

工学を志向し、物事を多面的に思考して判断した上で、自分の考えを論理的に表現し、伝える能力を持つ人。

＜主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度＞

工学技術における様々な問題に関心を持ち、課題を解決するために、他者と協働しながら、身に付けた知識を役立てたいという意欲を持つ人。

【入学者選抜の方針】

工学部では、上記に示す人材を選抜することを目的とし、次の入学者選抜制度を設けています。

- ・総合型選抜（学科課題型）では、基礎力を測る適性検査、調査書、学科課題及び面接により、工学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。
- ・総合型選抜（自己推薦型）では、基礎力を測る適性検査及び面接により、工学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（指定校制）では、基礎力を測る適性検査、調査書及び面接により、技術を学びたいという具体的かつ強い意志を総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（公募制）及び学校推薦型選抜（女子特別選抜）では、適性検査により基本的な学力を評価するとともに、調査書により、学びたい意志を示す活動実績を評価します。
- ・一般選抜（A日程及びB日程）では、記述式を含む学力試験により工学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。
- ・一般選抜（C日程）では、記述式総合問題により技術を学ぶ上で必要な科学的能力を評価するとともに、面接により、工学を学びたいという具体的かつ強い意志を評価します。
- ・大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの成績により工学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。

【令和7年度以降入学生】

工学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、工学に関する知識と技能に深い関心を持ち、その課題発見と解決の意欲に溢れ、人間力豊かな「ものづくり人材」を養成するために、次のような入学者を求めています。

＜基礎的・基本的な知識・技能＞

工学を学ぶ上で必要な「数学」「理科」「英語」などの基礎科目について、高等学校の基礎的・基本的な知識を有し、主体的な学修に意欲を持つ人。

＜思考力・判断力・表現力等の能力＞

工学を志向し、物事を多面的に思考して判断した上で、自分の考えを論理的に表現し、他者に伝える能力を持つ人。

＜主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度＞

工学技術における様々な問題に関心を持ち、未知の課題に対応するために、主体的に他者と協働しながら、身に付けた知識を活かしていきたいという意欲を持つ人。

【入学者選抜の方針】

工学部では、上記に示す人材を選抜することを目的とし、次の入学者選抜制度を設けています

- ・総合型選抜（学びの計画型及び自己推薦型）では、基礎力を測る適性検査、調査書及び面接により、工学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。

- ・学校推薦型選抜（指定校制）では、基礎力を測る適性検査、調査書及び面接により、技術を学びたいという具体的かつ強い意志を総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（公募制及び女子特別選抜）では、適性検査により基本的な学力を評価するとともに、調査書により、学びたい意志を示す活動実績を評価します。
- ・一般選抜（A日程及びB日程・3教科型）では、記述式を含む学力試験により工学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。
- ・一般選抜（B日程・総合問題型）では、記述式総合問題により技術を学ぶ上で必要な科学的能力を評価するとともに、面接により、工学を学びたいという具体的かつ強い意志を評価します。
- ・大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの成績により工学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。

学部等名 情報学部
教育研究上の目的 （公表方法：広島工業大学ホームページ（大学紹介・その他）で公開 URL： https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/etc/）
（概要） 【令和6年度以前入学生】 社会生活に密着した情報学について研究教授を行い、高度情報化社会の形成に貢献できる学識を備えた、情報関連技術の中核を担う人材を育成します。 【令和7年度以降入学生】 情報学の高度な専門知識を修得するとともに、情報学に関わる先端技術及びその実践力を身に付け、高度情報化社会の形成に貢献しリードする「デジタル人材」を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：広島工業大学ホームページ（3つのポリシー）で公開 URL： https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/）
（概要） 【令和6年度以前入学生】 情報学部では、社会生活及び経済活動を支える情報学の広範囲にわたる高度な知識を修得するとともに、情報学に関わる先端技術及びその実践力を身に付けることで、他者と協調しながらグローバル化した高度情報化社会の形成に貢献する人材を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすと同時に、次の要件を備えた者に、学士の学位を授与します。 <知識・理解> 社会生活の基盤となる情報学の学問体系を理解し、その広範囲にわたる高度な専門知識と幅広い教養を身に付けることで、社会における課題を解決できる。 <思考・判断> グローバル化した高度情報化社会を高い英知と環境意識を持って論理的に思考し、他者と協調しながら、課題を解決するために判断できる。 <技能・表現> 社会生活で取扱う膨大な情報を、高度に処理する高い技能を有するとともに、ものごとに対する自らの考えを適切かつ平易に表現できる。 <関心・意欲・態度> 社会に対する深い関心を持ち、修得した知識を応用して社会における課題を解決する意欲を有し、高い倫理観を持って社会に貢献できる。

【令和7年度以降入学生】 情報学部では、情報学の高度な専門知識を修得するとともに、情報学に関わる先端技術及びその実践力を身に付け、高度情報化社会の形成に貢献しリードする「デジタル人材」を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士（情報学）の学位を授与します。 ＜知識・理解＞ 社会の基盤となる幅広い教養と情報学の専門知識を身に付け、高度情報化社会の創造に向けた方策を理解できる。 ＜思考・判断＞ 高度情報化社会の創造に向けて、客観的事実やデータに基づき論理的かつ合理的に思考し、社会の様々な課題への対応を適切に判断できる。 ＜技能・表現＞ 社会に溢れる膨大な情報から必要な情報を収集し適切な方法で処理する汎用的技能を備え、他者の考えを理解するとともに、自らの考えを正確にわかりやすく表現できる。 ＜関心・意欲・態度＞ 社会について深い関心を持ち、その課題を見出すとともに情報技術を用いて他者と協働することで解決する意欲を有し、グローバルな視野と倫理観を持って社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：広島工業大学ホームページ（3つのポリシー）で公開 URL： https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/）
（概要） 【令和6年度以前入学生】 情報学部は、広島工業大学の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）をもとに、情報学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえて教育課程を編成します。教育課程は、国際感覚と幅広い教養を備え、広い視野と豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観とコンピテンシーを持つ技術者となることを目的とした社会実践教育科目、高度情報化社会の形成に貢献する基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリーにより学びの順次性をもって編成します。 【令和7年度以降入学生】 情報学部では、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、「デジタル人材」を養成するための教育課程を編成します。教育課程は、グローバルな視野と幅広い教養を備えた豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観を持ち他者と協働し社会に貢献できる技術者となることを目的とした社会実践教育科目、情報学に関する基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリー及びナンバリングにより学びの順次性をもって編成します。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：広島工業大学ホームページ（3つのポリシー）で公開 URL： https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/）

(概要)

【令和6年度以前入学生】

(概要)

情報学部では、ディプロマ・ポリシーに基づき、情報に関するものづくり関連知識と技能に深い関心を持ち、その課題発見と解決の意欲に溢れ、人間力豊かな人材を育成するために、次のような入学者を求めています。

＜知識・技能＞

情報学を学ぶ上で必要な「数学」「理科」「英語」「国語」「地理歴史、公民」などの基礎科目について、高等学校の教科書レベルの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲を持つ人。

＜思考力・判断力・表現力等の能力＞

情報学を志向し、物事を多面的に思考して判断した上で、自分の考えを論理的に表現し、伝える能力を持つ人。

＜主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度＞

地域社会や国際社会における様々な問題に関心を持ち、課題を解決するために、他者と協働しながら、身に付けた知識を役立てたいという意欲を持つ人。

【入学者選抜の方針】

情報学部では、上記に示す人材を選抜することを目的とし、次の入学者選抜制度を設けています。

- ・総合型選抜（学科課題型）では、基礎力を測る適性検査、調査書、学科課題及び面接により、情報学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。
- ・総合型選抜（自己推薦型）では、基礎力を測る適性検査及び面接により、情報学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（指定校制）では、基礎力を測る適性検査、調査書及び面接により、技術を学びたいという具体的かつ強い意志を総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（公募制）及び学校推薦型選抜（女子特別選抜）では、適性検査により基本的な学力を評価するとともに、調査書により、学びたい意志を示す活動実績を評価します。
- ・一般選抜（A日程及びB日程）では、記述式を含む学力試験により情報学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。
- ・一般選抜（C日程）では、記述式総合問題により技術を学ぶ上で必要な科学的能力を評価するとともに、面接により、情報学を学びたいという具体的かつ強い意志を評価します。
- ・大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの成績により情報学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。

【令和7年度以降入学生】

情報学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、情報学に関する知識と技能に深い関心を持ち、その課題発見と解決の意欲に溢れ、人間力豊かな「デジタル人材」を養成するために、次のような入学者を求めています。

＜基礎的・基本的な知識・技能＞

情報学を学ぶ上で必要な「数学」「理科」「英語」「国語」「地理歴史、公民」などの基礎科目について、高等学校の基礎的・基本的な知識を有し、主体的な学修に意欲を持つ人。

＜思考力・判断力・表現力等の能力＞

情報学を志向し、物事を多面的に思考して判断した上で、自分の考えを論理的に表現し、他者に伝える能力を持つ人。

＜主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度＞

地域社会や国際社会における様々な問題に関心を持ち、未知の課題に対応するために、主体的に他者と協働しながら、身に付けた知識を活かしていきたいという意欲を持つ人。

【入学者選抜の方針】

情報学部では、上記に示す人材を選抜することを目的とし、次の入学者選抜制度を設けています。

- ・総合型選抜（学びの計画型及び自己推薦型）では、基礎力を測る適性検査、調査書及び面接により、情報学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（指定校制）では、基礎力を測る適性検査、調査書及び面接により、技術を学びたいという具体的かつ強い意志を総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（公募制及び女子特別選抜）では、適性検査により基本的な学力を評価するとともに、調査書により、学びたい意志を示す活動実績を評価します。
- ・一般選抜（A日程及びB日程・3教科型）では、記述式を含む学力試験により情報学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。
- ・一般選抜（B日程・総合問題型）では、記述式総合問題により技術を学ぶ上で必要な科学的能力を評価するとともに、面接により、情報学を学びたいという具体的かつ強い意志を評価します。
- ・大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの成績により情報学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。

学部等名 環境学部

教育研究上の目的

（公表方法：広島工業大学ホームページ（大学紹介・その他）で公開

URL：<https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/etc/>）

（概要）

【令和6年度以前入学生】

自然環境系、社会環境系及び人間環境系の分野を融合した新しい概念の上に立ち、良好な環境の保全や形成を行う観点から物事を考察できる姿勢と能力を有した人材を育成します。

【令和7年度以降入学生】

人間の生活と健康を支える自然環境と社会環境に関わる幅広い教養と専門知識を身に付け、持続可能な社会創造をリードする環境志向の技術系人材である「グリーン人材」を養成します

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：広島工業大学ホームページ（3つのポリシー）で公開

URL：<https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/>）

（概要）

【令和6年度以前入学生】

環境学部では、自然環境系、社会環境系及び人間環境系を融合した新しい領域の学修を通して幅広い教養を身に付け、グローバルな視野を持ち、良好な環境の保全並びに環境共生型社会創生を行う視点と能力を身に付けた人材を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士の学位を授与します。

＜知識・理解＞

地球環境と居住環境を主題にした生活環境に関わる幅広い教養と知識を修得し、様々な環境問題の解決と環境共生型社会創生に向けた方策を理解できる。

<思考・判断>

地球環境と居住環境との持続的共生を基本にして、創造的かつ論理的に思考でき、環境共生型・循環型社会の構築に向けて、社会の要求に対応できる。

<技能・表現>

多様な課題に対して幅広い知識をもとに、広く用い得る技能を有し、自らの考えを文章化あるいは図式化して、正確にわかりやすく表現することができる。

<関心・意欲・態度>

地球環境と居住環境に関わる様々な事象と課題への関心を継承し、社会貢献への意欲を持って、技術者としての高い倫理観を有し、責任ある行動ができる。

【令和7年度以降入学生】

環境学部では、人間の生活と健康を支える自然環境と社会環境に関わる幅広い教養と専門知識を身に付け、持続可能な社会創造をリードする環境志向の技術系人材である「グリーン人材」を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士（環境学）の学位を授与します。

<知識・理解>

自然環境と社会環境に根差した豊かな生活を追求するための幅広い教養と専門知識を身に付け、持続可能な社会の創造に向けた分野横断的な方策を理解できる。

<思考・判断>

持続可能な社会の創造に向けて論理的に思考し、人間の生活と健康を支える自然環境と社会環境に関わる課題への対応を適切に判断できる。

<技能・表現>

持続可能な社会の創造に関わる専門知識に基づく汎用的技能を備え、他者の考えを理解するとともに、自らの考えを正確にわかりやすく表現できる。

<関心・意欲・態度>

社会の持続可能性に対して深い関心を持ち、グローバルな視野に立って他者と協働することで課題を解決する意欲を有し、高い倫理観を持って社会に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：広島工業大学ホームページ（3つのポリシー）で公開

URL：<https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/>）

（概要）

【令和6年度以前入学生】

環境学部は、広島工業大学の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）をもとに、環境学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえて教育課程を編成します。教育課程は、幅広い知識と見識を持った豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観とコンピテンシーを持つ技術者となることを目的とした社会実践教育科目、環境を考慮したより良い社会をつくるための基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリーにより学びの順次性をもって編成します。

【令和7年度以降入学生】 環境学部では、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、「グリーン人材」を養成するための教育課程を編成します。教育課程は、グローバルな視野と幅広い教養を備えた豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観を持ち他者と協働し社会に貢献できる技術者となることを目的とした社会実践教育科目、環境学に関する基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリー及びナンバリングにより学びの順次性をもって編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：広島工業大学ホームページ(3つのポリシー)で公開 URL：https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/)
(概要) 【令和6年度以前入学生】 環境学部では、ディプロマ・ポリシーに基づき、自然環境、社会環境及び人間環境に関するものづくり関連知識と技能に深い関心を持ち、その課題発見と解決の意欲に溢れ、人間力豊かな人材を育成するために、次のような入学者を求めています。 ＜知識・技能＞ 環境学を学ぶ上で必要な「数学」「理科」「英語」「国語」「地理歴史、公民」などの基礎科目について、高等学校の教科書レベルの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲を持つ人。 ＜思考力・判断力・表現力等の能力＞ 環境学を志向し、物事を多面的に思考して判断した上で、自分の考えを論理的に表現し、伝える能力を持つ人。 ＜主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度＞ 自然環境、社会環境及び人間環境における様々な問題に関心を持ち、課題を解決するために、他者と協働しながら、身に付けた知識を役立てたいという意欲を持つ人。 【入学者選抜の方針】 環境学部では、上記に示す人材を選抜することを目的とし、次の入学者選抜制度を設けています。 ・総合型選抜(学科課題型)では、基礎力を測る適性検査、調査書、学科課題及び面接により、環境学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。 ・総合型選抜(自己推薦型)では、基礎力を測る適性検査及び面接により、環境学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。 ・学校推薦型選抜(指定校制)では、基礎力を測る適性検査、調査書及び面接により、技術を学びたいという具体的かつ強い意志を総合的に評価します。 ・学校推薦型選抜(公募制)及び学校推薦型選抜(女子特別選抜)では、適性検査により基本的な学力を評価するとともに、調査書により、学びたい意志を示す活動実績を評価します。 ・一般選抜(A日程及びB日程)では、記述式を含む学力試験により環境学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。 ・一般選抜(C日程)では、記述式総合問題により技術を学ぶ上で必要な科学的能力を評価するとともに、面接により、環境学を学びたいという具体的かつ強い意志を評価します。 ・大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの成績により環境学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。

【令和7年度以降入学生】

環境学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、環境学に関する知識と技能に深い関心を持ち、その課題発見と解決の意欲に溢れ、人間力豊かな「グリーン人材」を養成するために、次のような入学者を求めています。

＜基礎的・基本的な知識・技能＞

環境学を学ぶ上で必要な「数学」「理科」「英語」「国語」「地理歴史、公民」などの基礎科目について、高等学校の基礎的・基本的な知識を有し、主体的な学修に意欲を持つ人。

＜思考力・判断力・表現力等の能力＞

環境学を志向し、物事を多面的に思考して判断した上で、自分の考えを論理的に表現し、他者に伝える能力を持つ人。

＜主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度＞

自然環境及び社会環境における様々な問題に関心を持ち、未知の課題に対応するために、主体的に他者と協働しながら、身に付けた知識を活かしていきたいという意欲を持つ人。

【入学者選抜の方針】

環境学部では、上記に示す人材を選抜することを目的とし、次の入学者選抜制度を設けています。

- ・総合型選抜（学びの計画型及び自己推薦型）では、基礎力を測る適性検査、調査書及び面接により、環境学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（指定校制）では、基礎力を測る適性検査、調査書及び面接により、技術を学びたいという具体的かつ強い意志を総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（公募制及び女子特別選抜）では、適性検査により基本的な学力を評価するとともに、調査書により、学びたい意志を示す活動実績を評価します。
- ・一般選抜（A日程及びB日程・3教科型）では、記述式を含む学力試験により環境学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。
- ・一般選抜（B日程・総合問題型）では、記述式総合問題により技術を学ぶ上で必要な科学的な能力を評価するとともに、面接により、環境学を学びたいという具体的かつ強い意志を評価します。
- ・大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの成績により環境学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。

学部等名 生命学部

教育研究上の目的（公表方法：広島工業大学ホームページ（大学紹介・その他）で公開
URL： <https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/etc/> ）

（概要）

工学分野に保健衛生及び農学分野を含めた学際領域として研究教授を行い、健康な社会の形成に貢献できる学識と豊かな人間性を備えた生命関連技術の中核的・実践的専門的職業を担う人材を育成します。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：広島工業大学ホームページ（3つのポリシー）で公開

URL： <https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/> ）

(概要) 生命学部では、工学的立場から人の生命に深くかかわる生体医工学分野と、生命科学を基盤として食品を捉える食品生命科学分野において、健康で長寿な社会形成や将来予測される地球規模の食糧不足問題への対応に貢献できる人材を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士の学位を授与します。 <知識・理解> 幅広い教養とともに、基礎医学の知識や先端医療機器に関する工学的知識、又は微生物・バイオテクノロジーや食品に関わる専門的知識を身に付けている。 <思考・判断> 医療のサービスや食品製造技術の提供者の立場から、解決すべき課題に対して総合的に思考し、適切な対応を判断する能力がある。 <技能・表現> 生体医工学又は食品生命科学に関する課題を解決するための実践的な技能を有するとともに、自らの考えを分かりやすく表現し、伝えることができる。 <関心・意欲・態度> 常に生体医工学又は食品生命科学に関わる社会的課題に関心を持ち、その解決や改善に向けて積極的に奉仕・貢献する意欲を有し、併せて生命倫理と礼節に基づく素養を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：広島工業大学ホームページ(3つのポリシー)で公開 URL：https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/)
(概要) 生命学部は、広島工業大学の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)をもとに、生命学部の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえて教育課程を編成します。教育課程は、広い視野で人と物との関係思考できる豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観とコンピテンシーを持つ技術者となることを目的とした社会実践教育科目、健康な社会を創出するための基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリーにより学びの順次性をもって編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：広島工業大学ホームページ(3つのポリシー)で公開 URL：https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/policy/)
(概要) 生命学部では、ディプロマ・ポリシーに基づき、健康な社会の形成に関するものづくり関連知識と技能に深い関心を持ち、その課題発見と解決の意欲に溢れ、人間力豊かな人材を育成するために、次のような入学者を求めています。 <知識・技能> 生体医工学又は食品生命科学を学ぶ上で必要な「数学」「理科」「英語」などの基礎科目について、高等学校の教科書レベルの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲を持つ人。 <思考力・判断力・表現力等の能力> 生体医工学又は食品生命科学を志向し、物事を多面的に思考して判断した上で、自分の考えを論理的に表現し、伝える能力を持つ人。

＜主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度＞

健康な社会の形成における様々な問題に関心を持ち、課題を解決するために、他者と協働しながら、身に付けた知識を役立てたいという意欲を持つ人。

【入学者選抜の方針】

生命学部では、上記に示す人材を選抜することを目的とし、次の入学者選抜制度を設けています。

- ・総合型選抜（学科課題型）では、基礎力を測る適性検査、調査書、学科課題及び面接により、生体医工学分野又は食品生命科学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。
- ・総合型選抜（自己推薦型）では、基礎力を測る適性検査及び面接により、生体医工学分野又は食品生命科学分野における能力、意欲及び適性を多面的かつ総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（指定校制）では、基礎力を測る適性検査、調査書、面接により、技術を学びたいという具体的かつ強い意志を総合的に評価します。
- ・学校推薦型選抜（公募制）及び学校推薦型選抜（女子特別選抜）では、適性検査により基本的な学力を評価するとともに、調査書により、学びたい意志を示す活動実績を評価します。
- ・一般選抜（A日程及びB日程）では、記述式を含む学力試験により生体医工学又は食品生命科学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。
- ・一般選抜（C日程）では、記述式総合問題により技術を学ぶ上で必要な科学的能力を評価するとともに、面接により、生体医工学又は食品生命科学を学びたいという具体的かつ強い意志を評価します。
- ・大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの成績により生体医工学又は食品生命科学を学ぶ上で必要な基礎科目の学力を評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：広島工業大学ホームページ（組織）で公開

URL：<https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/summary/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
工学部	－	47 人	27 人	4 人	1 人	人	79 人
情報学部	－	21 人	14 人	1 人	2 人	人	38 人
環境学部	－	25 人	17 人	6 人	1 人	人	49 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		183 人					183 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： 広島工業大学ホームページ（研究者情報データベース）で公開 URL：https://hitdb.it-hiroshima.ac.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	500 人	498 人	99.6%	2150 人	1892 人	88.0%	若干名	10 人
情報学部	310 人	328 人	105.8%	1020 人	1209 人	118.5%	若干名	6 人
環境学部	290 人	242 人	83.4%	950 人	896 人	94.3%	若干名	2 人
生命学部	0 人	0 人	%	240 人	192 人	80.0%	若干名	0 人
合計	1100 人	1068 人	97.1%	4360 人	4189 人	96.1%	若干名	18 人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	478 人 (100%)	44 人 (9.2%)	428 人 (89.5%)	6 人 (1.3%)
情報学部	196 人 (100%)	10 人 (5.1%)	179 人 (91.3%)	7 人 (3.6%)
環境学部	144 人 (100%)	15 人 (10.4%)	125 人 (86.8%)	4 人 (2.8%)
生命学部	79 人 (100%)	8 人 (10.1%)	60 人 (75.9%)	11 人 (13.9%)
合計	897 人 (100%)	77 人 (8.6%)	792 人 (88.3%)	28 人 (3.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 構成比について、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため合計は必ずしも 100%とはなりません。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	574 人 (100%)	421 人 (73.3%)	84 人 (14.6%)	69 人 (12.0%)	人 (%)
情報学部	238 人 (100%)	181 人 (76.1%)	31 人 (13.0%)	26 人 (10.9%)	人 (%)
環境学部	183 人 (100%)	134 人 (73.2%)	25 人 (13.7%)	24 人 (13.1%)	人 (%)
生命学部	96 人 (100%)	75 人 (78.1%)	9 人 (9.4%)	12 人 (12.5%)	人 (%)
合計	1091 人 (100%)	811 人 (74.3%)	149 人 (13.7%)	131 人 (12.0%)	人 (%)

(備考) 工学部→生命学部へ転学部 1 人

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本学では、次年度の授業担当教員決定後（11 月頃）、授業担当教員が次年度開講授業科目のシラバスを作成している。シラバスは、授業の目的、履修条件、キーワード、履修上の留意事項、授業内容・方法、到達目標、評価方法及び比率、評価及び評価基準並びに能動的学習の授業手法を記載必須項目としている。

なお、授業の目的、キーワード、到達目標については、科目の開講学科でそれぞれ定めているディプロマ・ポリシーと関連させて記載することとしており、カリキュラムの一貫性を担保している。

また、授業改善点を記載する項目を設けており、前年度に開講した授業の実施結果（履修者によるアンケート）等を踏まえて、授業内容や方法の改善に努めている。

作成されたシラバスについては、シラバス・チェックシートにより、作成者本人及び第三者である関係教員が、ディプロマ・ポリシーとの関連性、事前・事後学修時間、実務経験のある教員による授業科目等の記載を確認している。

(授業科目)

教育科目領域を「リベラルアーツ教育科目領域」「社会実践教育科目領域」「専門教育科目領域」の 3 領域に分け、それぞれの教育課程表の区分と分野は以下のとおりとする。

- ・リベラルアーツ教育科目領域
 - 区分「リベラルアーツ教育科目」
 - 分野「人文」「社会」「自然」「外国語」「総合」
- ・社会実践教育科目領域
 - 区分「社会実践教育科目」
 - 分野「実践基礎」：1～2 年次科目、「実践発展」：3～4 年次科目
- ・専門教育科目領域
 - 区分「専門教育科目」
 - 分野「専門基盤」及び各学科の教育分野

(授業の方法及び授業内容)

本学では、すべての授業科目において以下の AL 手法(アクティブ・ラーニング手法)を導入することとしている。

- ・協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- ・ディスカッション・ディベート
- ・グループワーク
- ・プレゼンテーション
- ・実習、フィールドワーク
- ・反転授業
- ・Project-Based Learning
- ・Problem-Based Learning

(年間の授業計画)

本学では、以下の点に注意し、年間の授業計画及びシラバスの作成を行っている。

- ・授業計画内容はキーワード等を付して具体的に明記することとしている。

【悪い例】

【良い例】

直流回路の解析Ⅰ→直流回路の解析Ⅰ（抵抗の直並列接続と分圧・分流）

直流回路の解析Ⅱ→直流回路の解析Ⅱ（直並列回路）

- ・事前・事後学修に記入する時間は、実時間を記入する。
例:2 単位の講義(100 分授業×14 週)の場合、授業 1 回の事前・事後学修時間は合わせて 200 分
- ・授業計画内容や事前・事後学修は、学習成果が得られるよう明確にかつ具体的に示す。
【悪い例】
テキストを予習すること
実践レポートを作成すること
【良い例】
[情報を収集し/教科書 p○～p○を熟読し/etc]、○○について[まとめる/要約する/整理する/etc]こと
[教科書 p○～p○を予習し/授業での指示に従い/etc]、[予備レポート/実験レポート/etc]を作成すること

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 本学では、「GPA 等の客観的な指標設定」として、GPA 及び GPT の数値を算出し、学生の学修成果を示している。

なお、GPA 及び GPT を算出するための評語(評価)の基準については、以下に記載している。
また、学生の学修成果を GPA のクラス分布表を用いて可視化し、学生自身が学修について見直しを持って、主体的に取り組むよう促している。

卒業及び修了の認定にあつては、4 年間の在学と卒業に必要な単位数の修得を要件としている。

なお、年間履修単位数の上限を設けることで、事前・事後学習に必要な時間を確保し、単位の実質化を図っている。

GPT: 履修科目の成績合計値。履修科目ごとの単位数に、履修科目の成績評価に応じた GP(Grade Point) を乗じて得た値の合計で算出する。

ただし、自由科目の修得単位は算出の対象にならない。

<算出方法>

{(履修科目の単位数) × (履修科目の Grade Point) } の合計

評語(評価)	@	A	B	C	D
Grade Point	4	3	2	1	0

GPA: 履修科目の成績平均値。履修科目ごとの単位数に、履修科目の成績評価に応じた GP(Grade Point) を乗じて得た値の合計(GPT) を履修科目(未修得の履修科目を含む)の単位数の合計で除して算出し、小数点以下第 2 位(第 3 位を四捨五入)までの値で表す。最大値は 4.00 となる。

$$\frac{\{(履修科目の単位数) \times (履修科目の Grade Point)\} の合計}{履修科目(未修得の履修科目を含む)の単位数の合計}$$

GPT/GPA の種類:

- 【前期 GPT/GPA】 前期の履修科目の成績評価を対象として算出する値
- 【後期 GPT/GPA】 後期の履修科目の成績評価を対象として算出する値
- 【当該年度 GPT/GPA】 当該年度の履修科目の成績評価を対象として算出する値
- 【通算 GPT/GPA】 入学時からの履修科目全ての成績評価を対象として算出する値

(令和2年度～令和4年度入学生)				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	電子情報工学科	124 単位	有	40 単位
	電気システム工学科	124 単位	有	40 単位
	機械システム工学科	124 単位	有	40 単位
	知能機械工学科	124 単位	有	40 単位
	環境土木工学科	124 単位	有	40 単位
	建築工学科	124 単位	有	40 単位
情報学部 環境学部	情報工学科	124 単位	有	40 単位
	情報コミュニケーション学科	124 単位	有	40 単位
	建築デザイン学科	124 単位	有	40 単位
環境学部 生命学部	地球環境学科	124 単位	有	40 単位
	生体医工学科	124 単位	有	52 単位
	食品生命科学科	124 単位	有	40 単位
(令和5年度～令和6年度入学生)				
学部名	学科名	卒業に必要なとなる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	電子情報工学科	124 単位	有	40 単位
	電気システム工学科	124 単位	有	40 単位
	機械システム工学科	124 単位	有	40 単位
	知能機械工学科	124 単位	有	40 単位
	環境土木工学科	124 単位	有	40 単位
	建築工学科	124 単位	有	40 単位
情報学部	情報工学科	124 単位	有	40 単位
	情報コミュニケーション学科	124 単位	有	40 単位
環境学部	建築デザイン学科	124 単位	有	40 単位
	地球環境学科	124 単位	有	40 単位
生命学部	生体医工学科	132 単位	有	52 単位
	食品生命科学科	124 単位	有	40 単位
(令和7年度以降入学生)				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	電子情報工学科 (電子情報工学コース)	124 単位	有	46 単位
	電子情報工学科 (臨床工学コース)	124 単位	有	52 単位
	電気システム工学科	124 単位	有	46 単位
	機械情報工学科	124 単位	有	46 単位
	環境土木工学科	124 単位	有	46 単位
	建築工学科	124 単位	有	46 単位
情報学部	情報工学科	124 単位	有	46 単位
	情報システム学科	124 単位	有	46 単位
	情報マネジメント学科	124 単位	有	46 単位
環境学部	建築デザイン学科	124 単位	有	46 単位
	地球環境学科	124 単位	有	46 単位
	食健康科学科	124 単位	有	46 単位

GPAの活用状況（任意記載事項）	公表方法：大学ポータル 広島工業大学（GPAの活用） URL：https://up-j.shigaku.go.jp/school/category02/00000000617301000.html
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：広島工業大学ホームページで公開 URL：https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/etc/

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：広島工業大学ホームページ（キャンパスライフ）で公開 URL：https://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/facility/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

【令和6年度以前入学生】

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他(年額) 施設設備資金	備考(任意記載事項)
工学部	電子情報工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	授業料は入学時の額を在学期間中適用し、施設設備資金は2年次以降は入学時の額から年額40,000円増額となる。
	電気システム工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	機械システム工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	知能機械工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	環境土木工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	建築工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
情報学部	情報工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	情報コミュニケーション学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
環境学部	建築デザイン学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	地球環境学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
生命学部	生体医工学科	1,120,000円	250,000円	320,000円	
	食品生命科学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	

【令和7年度以降入学生】

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他(年額) 施設設備資金	備考(任意記載事項)
工学部	電子情報工学科 (電子情報工学コース)	1,120,000円	250,000円	220,000円	授業料は入学時の額を在学期間中適用し、施設設備資金は2年次以降は入学時の額から年額40,000円増額となる。
	電子情報工学科 (臨床工学コース)	1,120,000円	250,000円	320,000円	
	電気システム工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	機械情報工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	環境土木工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	建築工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
情報学部	情報工学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	情報システム学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	情報マネジメント学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
環境学部	建築デザイン学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	地球環境学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	
	食健康科学科	1,120,000円	250,000円	220,000円	

【令和 8 年度以降入学生】

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他 (年額) 施設設備資金	備考 (任意記載事項)
工学部	電子情報工学科 (電子情報工学コース)	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	授業料および施設設備 資金は、2 年次以降、 入学時の額からそれぞ れ年額 40,000 円増額 となる。
	電子情報工学科 (臨床工学コース)	1,140,000 円	250,000 円	320,000 円	
	電気システム工学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	
	機械情報工学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	
	環境土木工学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	
	建築工学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	
情報学部	情報工学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	
	情報システム学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	
	情報マネジメント学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	
環境学部	建築デザイン学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	
	地球環境学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	
	食健康科学科	1,140,000 円	250,000 円	220,000 円	

⑨ 大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・ 高等教育の修学支援制度や本学独自の支援制度等により、経済的支援を行っている。 ・ 初年次の特定の必修科目について開講期内に理解し、単位を修得できるよう支援するフォローアッププログラムを実施している。 ・ 教育学習支援センターでは、元高校教員が常駐し、英語・数学・物理に関する質問、相談に常時対応している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 教員は、学生へのキャリア教育支援と就職・進路指導を重要任務の一つとして取り組んでいる。卒業研究指導教員の個別指導を基本に、学科で選出した就職委員、キャリアセンター及び教学支援部が連携し、授業、行事、セミナー、ガイダンスの実施に加え、個別相談などに取り組んでいる。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 〔保健室による取組み〕 ・ 定期健康診断 学校保健安全法に基づき、全学年を対象とした健康診断を実施している。 その後、有所見者への対応や健康診断証明書発行に向け必要な指導・支援を行っている。 ・ 学校医による健康相談 毎週火曜日に学校医による健康相談を実施している。診察の結果によっては、応急処置や専門医へ紹介している。 ・ 応急処置 通学途中、講義及び課外教育活動中、実験及び実習中等に不慮の事故や疾病が発生した場合、ただちに応急処置を行い、状態によっては専門医に移送している。 ・ 健康相談 いつでも保健室で健康チェックができるよう全自動身長体重計、体内脂肪計、全自動血圧計等を設置し、測定結果をもとに健康管理の相談・支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：広島工業大学ホームページ（教育情報の公表）で公開

URL：<https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F134310109857
学校名 (〇〇大学 等)	広島工業大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人鶴学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1,067人（610）人	1,064人（595）人	一人（641）人
内 訳	第Ⅰ区分	228人	225人	
	(うち多子世帯)	(48人)	(39人)	
	第Ⅱ区分	106人	134人	
	(うち多子世帯)	(18人)	(24人)	
	第Ⅲ区分	89人	76人	
	(うち多子世帯)	(25人)	(20人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	125人	117人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	133人	119人	
	区分外（多子世帯）	386人	393人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（0）人
合計（年間）				1,109人（641）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	41人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	47人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	-
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	12人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	-	人	人
GPA等が下位4分の1	153人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	-	人	人
計	153人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。